

令和7年2月5日

研究に関するお知らせ

「場面緘黙症のための親子相互交流療法」の国内における 治療効果の多施設共同後方視的研究

かんもくネットでは、以下の研究を行っております。

この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、主治医にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんので、ご安心ください。

(1) 研究の概要

[研究の目的・意義]

場面緘黙症のための親子相互交流療法 (Parent-Child Interaction Therapy Adapted for Selective Mutism; PCIT-SM) は、米国の Steven Kurtz 氏が開発した親子の心理療法です。場面緘黙症は、ある状況 (例、家) では話せるにもかかわらず、学校や公共の場などで話すことができない小児期の精神疾患です。平均罹患期間は約 8 年と長く、適切な治療が行われないと、全般性不安症、特定の恐怖症やうつ病に罹患 (りかん) しやすいたことが報告されていますが、日本における場面緘黙症のお子さんの治療は早期に実施されているとは言い難い状況です。

PCIT-SM は場面緘黙症の子どもとその養育者を対象とした治療法で、米国ではすでに有効性が報告されています。日本では令和 4 年より PCIT-SM が日本に導入され、少しずつ実践が広がっています。今後日本で PCIT-SM が普及するために、日本での PCIT-SM の効果検証が必須であると考えられます。本研究は、多施設共同後方視的に PCIT-SM の治療効果の分析を行うことを目的としています。

(2) 研究の方法

- ① この研究は愛育研究所倫理委員会の承認を得て実施されます。

研究期間: 倫理委員会承認日～令和 9 年 3 月 31 日

- ② 令和 4 年 8 月以降に PCIT-SM を受けた子どもとその養育者の治療データを集計します。

収集する情報:

- i. 被検者の背景情報

年齢、性別、所属の区分 (幼稚園/保育園/小学校)、医学診断、薬物療法の有無、
使用薬品名

「場面緘黙症のための親子相互交流療法」の国内における治療効果の多施設共同後方視的研究

- ii. 被験者の養育者の背景情報
年齢、性別、参加した養育者の区分(母親/父親/その他)、養育者の精神疾患の有無
 - iii. PCIT-SM 実施に関連する指標
治療期間、治療回数、学校・幼稚園の先生へのティーチの実施の有無、転帰(中断/修了)、中断の場合中断の理由
 - iv. 被験者児童の緘黙や不安症状、被験者養育者の児童への関りに関する指標
SM-BOT は治療前後、他の指標(SMQ、SSQ、FASA、CBCL、PSI)は治療前・前半終了時・治療終了時・終了3か月後・終了1年後に実施した値
- ③ 通常の治療範囲で得られたデータを使用する研究であり、新たな検査や費用が生じることはありません。
- ④ 使用するデータは、個人が特定されないよう匿名化を行い、個人情報に関しては厳重に管理します。
- ⑤ データは各協力機関より愛育研究所に収集され、解析が行われます。データは、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
- ⑥ 調査研究の成果は、学会や科学専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人を特定するような情報が公表されることはなく、個人情報は守られます。
- ⑦ この調査研究の一部は、メンタルヘルス岡本記念財団の研究費を使用します。また特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。
- ⑧ 研究組織:研究を実施するすべての共同研究機関及び責任者(施設名 50 音順)
- ◇ 一般社団法人日本 PCIT 研修センター・若松河田こころとひふのクリニック(併設):
加茂登志子
 - ◇ 医療法人財団青溪会 駒木野病院:伊東史エ
 - ◇ かんもくネット:角田圭子
 - ◇ 神戸女学院大学・Sophia next 心理教育研究所:國吉知子
 - ◇ さいたま市子ども家庭総合センター:加藤郁子
 - ◇ 自治医科大学:門田行史
 - ◇ 総合母子保健センター愛育クリニック:細金奈奈

「場面緘黙症のための親子相互交流療法」の国内における治療効果の多施設共同後方視的研究

本研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

[かんもくネット連絡先]

<https://www.kanmoku.org/form>

[本研究全体の研究代表者]

社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 愛育研究所

〒106-8580 東京都港区南麻布 5-6-8 電話:03-3473-8311

児童福祉・精神保健研究部 研究員

細金 奈奈